

省エネルギー化対策

推進状況(21.1.14)

燃料の節減に資する利用方法の普及啓発

→ 燃料の節減に資する保守点検方法や運転方法をわかりやすく取りまとめた「省エネ利用マニュアル」の利用を推進。



マニュアルを冊子化して全国会議等で周知を図るとともに、マニュアルの実践を一部の補助事業で要件化。  
21年度より農業技術研修館における指導員養成研修において、カリキュラムを設定予定。

燃料の節減に資する農業機械の普及促進

→ 高速田植機、大型汎用コンバイン、穀物遠赤外線乾燥機等燃料の節減に資する農業機械の導入を促進。



19年度に続き、20年度1次補正予算においても国の補助事業「強い農業づくり交付金」に特別枠を設け、28億円の予算を措置。  
さらに、20年度2次補正予算及び21年度当初予算においても、「強い農業づくり交付金」へのメニュー追加を予定。



遠赤外線乾燥機

→ 農業機械の省エネ性能について効果的に情報提供を進めていくための方策を検討。



20年7月以降、研究会等での検討を実施。  
21年度当初予算において、省エネ性能の確認方法の確立等に向けた事業を実施予定。

バイオディーゼル燃料の利用促進

→ 地域で生産されたバイオディーゼル燃料を農業機械に継続的かつ安定的に利用するモデル産地を育成。



20年度新規予算により、農業機械へのBDF利用ガイドラインを冊子化して周知を図るとともに、全国に4カ所モデル地区を設置し、実証事業を開始。

燃料の節減に資する新たな農業機械の開発促進

→ シンプルな構造で所要動力の低減を可能とする中耕除草機や、もみ殻の乾燥に要する熱量を削減する玄米乾燥機など燃料の節減に資する新たな機械の早期実用化に向けた開発を促進。



緊プロ事業を推進中。  
このうち、中耕除草機は、本年春より市販化の見込み。  
また、玄米乾燥機については、複数の乾燥機メーカーを含む産学官での開発に着手。